

【注意事項】

R20TS0064JJ0100

Rev.1.00

2016.07.16 号

**RL78 ファミリおよび 78K0R 用 C コンパイラ CA78K0R、
78K0R 用 C コンパイラ CC78K0R、
78K0 用 C コンパイラ CA78K0 および CC78K0**

概要

RL78 ファミリおよび 78K0R 用 C コンパイラ CA78K0R、78K0R 用 C コンパイラ CC78K0R、78K0 用 C コンパイラ CA78K0 および CC78K0 の使用上の注意事項を連絡します。

1. ネストしたヘッダファイル内に#pragma section 指令を記述した場合の注意事項

1. ネストしたヘッダファイル内に#pragma section 指令を記述した場合の注意事項**1.1 該当製品**

- CA78K0R V1.70 ~V1.72 (統合開発環境 CS+)
- CA78K0R V1.20 ~V1.70 (統合開発環境 CubeSuite+)
- CA78K0R V1.00 ~V1.10 (統合開発環境 CubeSuite)
- CC78K0R V1.00 ~V2.13 (統合開発環境 PM+)
- CA78K0 V1.30 (統合開発環境 CS+)
- CA78K0 V1.20 ~ V1.21 (統合開発環境 CubeSuite+)
- CA78K0 V1.00 ~ V1.11 (統合開発環境 CubeSuite)
- CC78K0 V1.00 ~ V4.10 (統合開発環境 PM+)

1.2 内容

ネストしたヘッダファイル内に#pragma section 指令があると、指定したセクションにデータを配置しない場合があります。

1.3 発生条件

以下のすべての条件を満たす時に発生する場合があります。

- (1) C のソースファイルでヘッダファイル (ファイル A とする) をインクルードし、ファイル A 内で他のヘッダファイル (ファイル B とする) をインクルードしている。
- (2) ファイル A またはファイル B ^注 内に#pragma section 指令がある。

なお、C のソースファイル内にある#pragma section 指令は対象外です。

注：ファイル B 内で更にインクルードしているヘッダファイルも含まれます。

発生例

```
#include "incl.h" /* 発生条件(1) */
int i1;          /* DATA_H1 セクションではなく DATA_H2 セクションに配置 */
void func(void)
{
}

[incl.h]
#include "inc2.h" /* 発生条件(1) */
#pragma section @@DATA DATA_H1 /* 発生条件(2) */
inth1_i1;       /* DATA_H1 セクションではなく @@DATA セクションに配置 */

[inc2.h]
inth2_i1;
#pragma section @@DATA DATA_H2 /* 発生条件(2) */
```

1.4 回避策

ファイル A およびファイル B^註 内に #pragma section 指令を記述しないでください。

注：ファイル B 内で更にインクルードしているヘッダファイルも含みます。

1.5 恒久対策

改修の予定はありません。

以上

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2016.07.16	-	新規発行

ルネサスエレクトロニクス株式会社
 〒135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24 (豊洲フォレシア)

■総合お問い合わせ先
<http://japan.renesas.com/contact/>

本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。

ニュース本文中の URL を予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。